

弘前市自治基本条例市民検討委員会調査概要 (「自治基本条例に関する事項(答申)」中間報告書に対する意見聴取)		
日時	平成25年12月3日(火)15時30分～16時38分	
場所	弘前市役所本庁舎 新館6階 第1会議室	
出席者 (12人)	団体	(事業者:4人) 公益社団法人弘前青年会議所
	委員	(4人) 工藤委員、柴田委員、島委員、蟻塚委員
	担当	(4人) 櫻田市民協働政策課長、工藤係長、櫻庭主査、佐藤主事
団体に対する中間報告書の内容説明		平成25年12月3日(火)、一括説明
調査概要		
<p>(※ 市民協働政策課長挨拶)</p> <p>(※ 1 趣旨説明)</p> <p>(※ 2 出席者紹介)</p> <p>1 開会</p> <p>2 意見聴取</p> <p>(審議の経過、条例の必要性等について概要説明 省略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当会では、どんなまちづくりがしたいか、どのような弘前になって欲しいかということについて、日常の考え方、持っている市民の意見、イメージを吸い上げようということで、まずは、おじいちゃんから若い連中まで広く集めて、弘前コミュニティミーティングという事業を2年間開催した。 ・ その時の意見で多かったイメージは、土手町や駅前だとか、今までの外型コンパクトシティだとか、色んな軸の話があるのだろうが、まちづくりというよりも、昔ながらの弘前というイメージが結構強いように感じた。 ・ 例えばりんご畑があり、その周りで子どもたちが笑い、隣近所のおじいちゃんおばあちゃん、そんなつながりを持ちながら、そのコミュニティから生まれるのがまちづくりであるということも、市民の人たちは、すごく意識されていて話題にもなり、意外に特別な取り組みをしなくても、何か当たり前のことをやるだけでいいのかなという気がした。 ・ この中間報告書で、特別、この文字がダメだとかはないが、「協働」という位置づけが難しく捉えられる部分が多いと思うので、もう少し「笑顔あふれるまちづくり」とか、ニュートラルな言葉を入れたり、「笑顔で、みんなでつながりをもってやっとうよ」というニュアンスの方が受け入れられるという気はした。 ・ 当会では、市民が主役のまちづくりということで、色々な事業を若者なりにやりながら勉強してきたが、ようやく自治基本条例という形で、市民が主体となったまちづくりが始まってくること、すごくドキドキするし、これからの弘前の歩みも非常に明るいのではないかと思う。 ・ 市民、議会、執行機関の3者が全て歯車のようにしっかりと回らないと、弘前の将来が進んでいかないということで、市民は、まちづくりにおいて徐々にトレーニングされてきつつあるが、議会の方々とも一緒になっていく必要を当然感じてくるであろうし、お互いの足りない部分がこの条例を定めることによって見えてくると思う。 ・ 行政にとっても自分たちに足りない部分というか、今後、大きな課題となる少子高齢化に関しても、解決すべきものが、それぞれ助け合っていないと、解決しないという実感が危機感として、より市民、議会、執行機関3者において明らかになると思う。 ・ 今までは、市民、議会、執行機関、それぞれが放任主義で、自分たちが良ければという感覚がどこかにあったのを市の一体感として進めようということで、とてもいいと思う。 		

- ・学生、子どもを主体として位置付けて、若者に目を向けるのは非常に大事で、子どもたちも未来があるように行うのも大事だが、今後、お年寄りが溢れていく社会をみようとしたときに、本当にお年寄りが笑顔でいれるのかとか、もっと笑顔じゃないと、将来に不安を感じるのは子ども達だったりする。
- ・実は、この子どもや学生の裏腹に、キーワードとしてとても大事なものは、お年寄りであると、私達、若者としても、背景におかなければいけないと思っているので、この条例の中に、当然、お年寄りというキーワードも入らなければ、バランスのいい条例として、長続きしないのではないかと感じた。
- ・市民力等の推進で、エリア担当制度について方針として謳われているが、単に職員を配置するだけであれば、町会長や町会の人たちの単なる係でしかないので、条例化を目指して、職員の質の向上、本当の問題点を解決していくために、執行機関としての情報のやり取りの役割にしっかりと重みを持たせて配置していくのも必要になると感じている。
- ・先程も言ったが、議会の皆さんとの協調というか、それこそ協働がうまく図れば、弘前のまちも、一気に前に開けて前進していくのではないかなという感覚でいる。
- ・今年、市と連携して、Cross.Sという事業を11月に開催したが、我々、団体でできることが、本当に少ししかないということ、そして、つながりというのが本当に大事だなというのがここ何年か実感している。
- ・何をやるにしても、自分の会社を持っていたり、勤めながら、プラスアルファの事業をやるので、どうしても無理がかかっているというのが正直あって、やはり市民の人たちが、もっと集まりやすい環境を作ってあげないといけないと思う。
- ・事業をしても、メンバーの家族が来るぐらいで終わる事業であれば、まちづくりと言えない気がしていて、もっと色んな団体が、今、弘前は、個々では出来てきているので、それにつながりを付けることが、今後、本当に大事で、極端な話、市だけではなく、東北であったり、より広がりを持った考え方をしないとまちづくりができてこないと思う。
- ・学生の役割もあり、学生と子どもが分かれていて、非常にいいが、どうしてもまちづくりの場に学生だけを置くと、責任感が生まれにくく、能動的、主体的に来る学生は、責任感が出てくるが、行けと言われて来る学生は、ただいるだけという感じもあるので、この条例を作るに当たっても、やはり、あなたは何のためにやるんだよということをしっかりと考えさせた上で作っていかなければ難しいと思う。
- ・今、市民と執行機関の連携が非常にうまくいっていて、いい動き、意思疎通もできているが、やはり議会となると、どうしても、まだ何をやっているのかなというのが、実感としてあるので、そこが、今後のまちづくりのキーワードになってくるのかなと思う。
- ・仕組みづくりというのが本当に素晴らしいと見ていたが、その中で、つながりが大事で、当会でも色々なネットワーク、つながりを使って取り組んでおり、それがしっかりできていけば、自分たちの地域にも生かされるというか、そのネットワークを作ったからには、しっかり運営していくように、みんなでルールを守ってやっていければいいと思う。
- ・やはり、市民主体というところの市民の役割とか、市民に主体性を持たせる、それを子どもたちや市民、大人にどのようにして伝えていくのが1番難しいところだと思う。
- ・やる気のある高校生などは、自分でまちづくりに関わりたいというのがあるが、そうでもない子どもは、全くそういうことを考えていなかったりするので、小さいときから、例えば、自分が親父で、家でご飯を食べている時に、「弘前には、こういった条例がある。分かるか。」と一緒に見ながら教えたり、何かそういう環境を作ってあげたいと思う。
- ・町会については、実際、何かイベントをしているのかといえば、あまり分からないし、例えば、昔で言えば町会の会館があり、そこに子どもたちが集まって、何か遊んだり、その中で、年配の人が、お菓子などを食べながら、遊び方を教えてあげたり、弘前って

- こんなまちなんだって絵本読んだりという環境があったが、今はあまりない。
- ・やはり、すばらしい大人、老人がいて、その中で、子どもは育ってくると思うので、その本当の地域の小さいコミュニティをもっと大事にしていた方がいいと、自分の子どもたちを教育している立場で、最近つくづく感じており、その辺も当会の中で、色々やっていきたいと日々考えている。
 - ・これまでの話を聞いて、自分たち（委員）が頑張って作成した中間報告書に足りなかった部分ややはりそうだよねと感じた部分を話していただきたいと思う。
 - ・キーワードとして、お年寄りを挙げていただき、まさしくこれからの時代は高齢化で、特にその人口も増えるので、そのキーワードは確かになという感覚があり、バランスのよい条例づくりという意味で、すごくいいと思った。
 - ・市民の中にある学生、子どもの役割で、いかに主体性を持たせられるかという人材づくりや環境づくり、その辺の仕組みが、今後、色んな方との協働で作られていくべきで、恐らく貴会、市、NPO、みんなで盛り上げて環境を作り、人材を作っていくと、ゆくゆくは、意欲ある子どもたちが育ち、市全体が盛り上がっていくという印象を持った。
 - ・皆さんの話を聞いて、子どもや学生から老人のことまで、幅広く考えていて、今、農家が益々高齢化し、農家をやる人が本当に少なくなっているが、それは、農家だけではなくて、益々、これから老人が増えていくということで、その辺の将来的なことも考えているとつくづく感じた。
 - ・弘前市の基幹産業は農業であり、その中でもりんごが主体であるが、それが今は大変な時代になっており、後継ぎがなく、畑を存続することが大変になっているところも、弘前市のまちづくりで、どう解決していかなければならないかという大きい課題である。
 - ・今までの役所は縦割りで、農林関係は農林部で、りんご作りや減反にしても国の指示を市民に行ってもらい、それを売って商工業になり、2次加工品を作り、商売が営まれているが、それも農産物が主体の面があり、弘前のまちづくりは、経済活動の中で生まれていて、皆さんが経済活動を担っていかなければならないと思うが、今までの意見の中で、笑顔のある老人が元気で歩いているまちという件について（委員から）意見をお願いしたい。
 - ・福祉は、以前、施設に入所という考えがあったが、何十年か前からは、障がいがある人も高齢者も、地域の中で人間らしく暮らすことが本当ではないかという動きになり、そんな中、介護保険制度で福祉が変わり、介護報酬が絡み、現状、中々施設に入れず、自宅でも面倒を見る人がおらず、誰が救うのかとなってくるが、それは、狭い範囲での地域が目を見せるのが本当ではないかと町会組織の強化等に力を入れてお願いしている。
 - ・この自治基本条例については、福祉というテーマもあるが、その他にも、常に地域の中で、みんながすぐに手を取り合える、自主防災組織のような、何かあったらすぐに声を掛け合えるネットワークができているという部分を制度として作っていったらと思っていて、若い方からこういう意見を聞くことができ感動している。
 - ・福祉、経済、農業、建築関係などから見たまちづくりを委員会で議論し、中間報告書としてまとめたが、特徴の1つは、憲法のように前文があることで、条例は全部並列で、順位は付けられないが、その中でも、前文を付けたのは、この条例を基本として、色々な条例、規則を制定することを主張して載せたもので、結論としては、文章が長くないように4つの項目を的確に捉えた内容を盛り込むべきとしたものである。
 - ・その内容は、弘前のまちの歴史や文化、それから、まちのあるべき姿がどうなのか、また、一番重要なポイントとして、先程の「つながり」という意見もそうだと思うが、市民の主体性、あるいは市民、議会、執行機関のお互いの信頼関係の中での「協働」が必要だとし、最後に、条例制定の意義を載せるということでこの前文を作った。

- ・(この条例の前文の例の内容説明 省略)、前文の中に、もっとこういう内容を載せた方がいいというものがあれば、教えていただきたい。
- ・今後、地域コミュニティという町会など、小さい単位から再生されていくと、その関係性が出来上がり、市民と執行機関との関わりもきちんと出来上がっていくと、議会の必要性が薄らいでくるのかもしれないと思うが、そこをきちんと噛み合わせて、必要な役割を担っていくために、この条例が無ければいけないので、議会のためにこれを制定するくらいの覚悟であってもいいのではないかと思う。
- ・議会と市長は、車の両輪などというが、もはや両輪ではなくて、どちらにも倒れない三輪車、その3つがうまくいかないといけなくて、そういう関わりの中で、まちづくりをしていくべきというのが趣旨であり、そういう意味では、協働によるまちづくりの基本条例をこういう形で進めていこうという前文を、この機会にまずは、知って欲しいと思う。
- ・最後に、委員会として、どのような形で、最後の仕上げをしてもらいたいかなどの意見があると思うので、この機会に我々に今後どういうことをやってもらいたいかな、委員に期待するところを、若い人の立場からの意見を聞きたいと思う。
- ・この条例の重要なところは、条例のポジショニング、そして、執行部と議会とのつながりという部分である気がしており、住民投票の項目もあるが、いつ、どこで、何のためにという部分がもう少し明確になって、この条例自体が、最後、市民の防波堤となっていくというか、まちづくりをしていて、こんな希望、夢があってという思いがつながるようなものになれば、前文の「笑顔あふれるまちづくり」につながっていく気がする。
- ・今、指摘のあった件は、総論であり、中間報告書にもあるが、市の政策の細かい事業は、総合計画に付託すべきで、自治法が改正になって、総合計画の基本構想の策定義務は無くなったため、この条例の中では、誰が市長になっても、短期、中期の総合計画はきちんと作ってもらい、その中で、細かいところをやっていくとしているものである。
- ・前文では、弘前の郷土愛を育むとあり、他の項目では、市外の人々、国等の連携があって外とのつながりも盛り込まれ、前文とつながらなくなるため、前文の例は、そのままでもいいが、その背景、解釈としては、青森県への思い、国家の誇りを育むという解釈があって、市内外の人との連携、国、世界とのつながり、世界平和というのは、前文の背景の中に思いとしてあるから、その項目を盛り込んだという導き方を持っていないと、市民はつながる目的が薄らいでしまう感じがした。
- ・議会の部分が気になっており、市民の代表であるからには、市民から出た意見を吸い上げて欲しいし、議会の役割でもあるので、それが、選挙につながっていくと思うが、選挙は、数年に1回なので、極端な話、住民投票の部分で、成績ではないが、うまく評価できる場があれば、3つ(市民・議会・執行機関)は、うまく回っていくような気がする。
- ・議会の役割という部分がしっかりしないと、この条例の骨格がなくなってしまうという思いで、もっと開かれた議会であるためには、もっと情報を発信してほしいなどの議論をしており、ようやくFMで一般質問を取り上げたが、発信方法はもっとあると思う。
- ・議会は開かれてきたが、政策提案と、積極的に情報提供し説明責任を果たしてもらうためにも、条例が施行されて、検証する委員会を1年に1回、この条例がしっかり管理され、うまくいっているのかを第三者機関を作って検証することが必要だと議論してきた。
- ・前文を見て、改めてこの弘前がいいと思っていて、自分が弘前に住んでいて、こういう感じでまちづくりに少しでも関わったことに本当に感謝しており、今後も、当会としても、個人、会社としても、こういう機会があれば積極的に関わり、自分もしっかり学んで、できれば検証のときにも関わられるようにもっと勉強していきたいと思う。

(出席委員の感想等 省略)

3 閉会